



だより



R6.11.26 Vol.29

文化・芸術体験活動

HP でも紹介しましたが、先週、プロの演奏家のピアノ・バイオリン・チェロの三重奏を聞く機会がありました。

とても素晴らしい音色だったことは言うまでもありません。演奏会の中で、演奏家の一人の方が、「演奏されている夕日は、どんな夕日なのか、それぞれが想像して聞いてくださいね。」とおっしゃった場面がありました。

どんな夕日が想像できるのか？これは実際の夕日をどれだけ見たことがあるのか、そこに尽きるのではないかと思います。真穴小から見える夕日は言葉をしうくらい綺麗な夕日です。記録したくてスマホで撮るのですが、画面の中の夕日は目の前に広がっている光景とはまったく別物です。体験する、経験する大切さはここにあるのだと思います。その体験が音楽という芸術に出会ったとき、より深いものになって自分の心の中で、再現されるのでしょう。そうやって感性は育っていくのだと思います。

話題が…

今月は何かと外出・出張が多く、学校を留守にすることがよくありました。(今月末も九州へ…)当然、子供との触れ合いも少なかったわけですが、そうすると大変なことが…そう！この便りの話題が生まれないんです。パソコンの画面を眺めるだけの時間が過ぎていきます。(笑)

が、その分、いろいろな会合で情報交換ができました。心に残った話をひとつ。『仕事をすぐやめる若者が増えている。』そんな話でした。「え？そのくらいのこと、がまんできない？」そう感じる人が多いのだそうです。叱られることや逆境に慣れていないのでしょうか？「ほめて伸ばす」とても聞こえの良いフレーズですが、社会はそんなに甘くありません。子供の将来を考えると、『叱ること』も忘れてはならないことだと感じます。

四方山話真穴 ver. 其の二十九(教育は遺伝に勝てるか？)

って本を読みました。これって私たち教員がずっと心のどこかにひっかかっていることです。(あ！私だけかもしれません。)自分の教師としての経験の中で、「やっぱり遺伝の影響が大きいんじゃないか？」良くも悪くもそう思うことが幾度となくあったからです。ただ突き詰めて考えたくない部分でもありました。だって、もし、勝てないのなら『じゃあ自分という教育者は何のためにいるの？』と最悪、自分否定につながりそうなので…。(飛躍しすぎですね。笑)

結論は、「勝てない！」(ガーン)でした。「**遺伝は教育に負けるほど、弱くはない！**」学力は遺伝が9割なのだそうです。(あくまでこの著者の考えですし、何を持って学力とするかは様々な捉え方があります。)が、それは当たってもいるし外れてもいるのだとか。「??」なにやら禅問答のような話になりましたね。

こんな言葉で言い換えてくれていました。「**遺伝をこの世界で形にしてくれるのが教育だ**」「**教育なしに遺伝は姿を現わさない**」遺伝の影響はかなり強いのは間違いのないことなのですが、(言われてみれば当たり前かも。生存していくための設計図なんですから。)教育という機会が与えられることで初めて、形として現れるのだそうです。一例をあげるのなら、とてもざっくりですが、仮に遺伝子の中に野球で開花するという才能が組み込まれていてもその機会や環境が与えられなければそれは眠ったまま終わるということですね。

そして私たち教師や保護者の皆さんが教育や子育てにおいて考えておくことは、「**まあそんなに肩肘張らなくていいよ。**」みたいなことでした。(笑)親がまっとうな生き方さえしていれば、その環境のおかげで、もしかしたらその子の中に眠る反社会的行動につながる遺伝子は眠ったまま終わるだろうし、逆に良かれと思って子供に詰め込み過ぎても、親が思うほどの影響は子供は受けないという話等がありました。そうそう、もっとこうすれば良かったと自身の子育てに私は反省ばかりですが、そこから子供に遺伝子は何かを学び、自身の成長につなげているのだそうです。他にも興味深い話がたくさんありました。機会があればまたいつか…。